

## 令和7年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和7年12月18日(木) 午後7時00分 開会 午後7時35分 閉会
場所	オンラインにて開催(茅ヶ崎市立病院 別棟会議室)
出席者氏名	(出席) 高山慶一郎委員長、下里隆史副委員長、長岡健介委員、山口哲也委員、勝山貴美子委員、大久保敦子委員、大久保一郎委員、北畠晶久委員 (欠席) 大木教久委員、横山大樹委員 事務局(中沢病院事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤副院長兼事務局長、益原診療部長兼患者支援センター所長、中戸川診療部長、河野中央診療部長、高瀬医事課長、平山患者支援センター担当長、岡野がん相談専従看護師、高橋医事課主査) (欠席) 山岡副院長兼看護部長
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援委員会次第</li> </ul> <p>1 患者支援センターの業務実績について(令和7年4月から9月の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率・逆紹介率 (資料1-1)</li> <li>・診療科別紹介率・逆紹介率 (資料1-2)</li> <li>・茅ヶ崎市立病院 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 (資料1-3)</li> <li>・登録医救急診察専用回線による紹介患者集計表 (資料1-4)</li> <li>・予約検査実績 (資料1-5)</li> <li>・相談日誌(延件数) (資料1-6)</li> <li>・退院支援実績 (資料1-7)</li> <li>・小児周産期実績 (資料1-8)</li> <li>・地域医療機関と連携した研修会等実績 (資料1-9)</li> </ul> <p>2 がん相談支援センターの業務実績について(令和7年4月から9月の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センター実績報告 (資料2)</li> </ul> <p>3 救急搬送状況について(令和7年4月から9月の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院別救急車搬送件数の状況(茅ヶ崎市消防) (資料3-1)</li> <li>・科別救急車搬送件数の状況</li> <li>・茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況(行政地区別) (資料3-2)</li> </ul> <p>4 その他</p>
会議の公開・非公開	公開

傍聴者数	0名
------	----

### ●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

定刻となりましたので、令和7年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開会いたします。

本日は、皆様お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めます、患者支援センターの益原でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、委員10名に対し8名の委員に出席いたしております、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、議題に入らせていただきます。これより先の議事進行につきましては高山委員長にお願いいたします。

高山委員長、よろしくお願ひいたします。

### ○高山委員長

茅ヶ崎医師会の高山です。円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題1の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

### ●事務局（平山担当長）

それでは、令和7年度4月から9月までの患者支援センターの業務実績について説明させていただきます。

患者支援センター担当長の平山です。よろしくお願ひいたします。

資料1-1をご覧ください。こちらは令和7年度の紹介率、逆紹介率の表です。紹介率の平均は76.2%、逆紹介率の平均は110.0%です。令和6年度と比較して紹介率は3.3ポイント増加、逆紹介率は1.4ポイント増加しています。

下段にあります、地域医療支援病院の承認要件2の紹介率65%以上、逆紹介率40%以上を満たしております。

資料1-2をご覧ください。令和7年度の診療科別紹介率、逆紹介率の表です。

右にある累計の欄をご覧ください。紹介率は、放射線診断科99.9%、呼吸器外科95.5%、眼科94.6%、消化器内科92.3%の順になっており、逆紹介率は腎臓内科、代謝内分泌内科、循環器内科の順になっています。

資料1-3をご覧ください。令和7年度の紹介元、逆紹介先の医療機関一覧です。紹介元医療機関名と紹介患者数、そのうち予約検査数、前年度実績、前年度比を表しています。

紹介元医療機関は、やまもと内科クリニック、藤川整形外科、大木医院、水沼医院の順に多くなっています。

逆紹介先医療機関は、やまもと内科クリニック、湘南いしぐろクリニック、藤川整形外科、大木医院の順に多くなっています。

前年度と比較して、紹介患者数が最も増加したのは5番の湘南いしぐろクリニックの95人増で、続いて9番の湘南藤沢徳洲会病院の70人増、2番の藤川整形外科58人増となっています。

資料1-4をご覧ください。令和7年度の登録医救急診察専用回線、循環器ホットラインの紹介に

についてです。

対応件数は393件で、前年度より62件増加しました。そのうち入院につながったケースは164件で昨年度と比較すると17件増加し、入院割合は42%になりました。小児科への紹介が全体の58%を占めており、小児科の入院割合は37%となりました。

資料1-5をご覧ください。令和7年度の予約検査の件数表です。

CT、MR-Iについては検査需要が高く推移しています。特にMR-Iは60件増加し、前年度比112.4%となっています。

資料1-6をご覧ください。令和7年度月別相談延べ件数表です。

相談対応は看護師と社会福祉士が行っており、4月から9月は新規1,360件、継続3,356件、合計で4,716件と前年度より85件増加しています。また、相談対応延総数は6,291件で前年度より105件増加しています。

Mix Jamクラウドを活用した転院調整は326件で、前年度より75件増加しており、湘南東部二次医療圏以外のAOI七沢リハビリテーション病院、ふれあい平塚ホスピタルがシステムを利用し、利便性が高まっています。

相談対応の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く1,690件、次に転院に向けての退院相談が1,545件、次に社会福祉制度の相談が888件となっています。

対応方法は電話での相談対応が2,053件と最も多く、対面での相談件数は1,840件となっています。

資料1-7をご覧ください。令和7年度の入退院支援の実績表です。総退院患者数は5,596名、そのうち退院支援スクリーニングで該当ありの患者が4,253名、入退院支援加算1算定患者は3,912名、入院時支援加算算定患者は1,851名、その他、退院前後訪問、介護支援連携指導、退院時共同指導2、多機関共同指導のデータです。介護支援連携指導、退院時共同指導2を除いたすべての項目で前年度を上回っています。

資料1-8をご覧ください。令和7年度の小児周産期医療に関するデータになります。分娩件数は181件、母体搬送数は13件、新生児搬送件数は26件で前年度を下回っています。訪問型産後ケアは5件、日帰り産後ケアは8件、メディカルショートステイは16件対応しています。メディカルショートステイを除くすべての項目で前年度を下回っています。

資料1-9をご覧ください。令和7年4月から9月までの地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績になります。合計9回開催し、247名が参加されました。研修会や症例検討会などカンファレンスを通じ、顔の見える関係性と連携強化を図れるように継続的に進めています。報告は以上になります。

## ○高山委員長

説明が終わりました。議題1について、委員の皆さんからのご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

## ○高山委員長

特に質問等ないので、議題1については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

ご異議がないのでこれで終了とさせていただきたいと思います。続いて議題2のがん相談支援センターの事業実績について、事務局より説明をお願いいたします。

## ●事務局（岡野看護師）

はい。がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願ひいたします。

それでは、がん相談支援センター令和7年度4月から9月の業務実績についてご説明いたします。資料2をご覧下さい。

1) の令和7年4月から9月までの延べ相談件数は1,282件で前年度より269件増加しました。また、相談実人数は339名で前年度より90名増加しました。

同日に来られた方の相談に対して対応ごとにカウントしていますので、関わっていく回数に伴い多くなっています。また、継続して関わる方の中で、繰り返し話を聞いてほしい、近況報告に来たなど受診の際に来られる方もいます。

最も多い相談回数は34回で、5回以上相談のあった方は57名でした。相談対応が重なる場合には、患者支援センターのスタッフに対応を依頼し、相談予約で後日対応しています。

2) の受診状況別がん相談件数に関しては自施設通院中が955件、自施設入院中が280件、他施設が34件、匿名その他は13件でした。院内では、担当医師から直接依頼を受けたり、医師事務や看護師から情報提供があり、介入を開始しています。他施設では、患者さんやご家族からの相談、その他、包括支援センターや訪問看護師から相談が入り、介入しています。ケースによっては、地域の関係機関と情報共有しながら進めています。

3) の受診状況別相談方法は、対面相談が1,024件、電話相談が258件でした。

4) のがんの主たる部位については、乳房が104件で最も多く、前立腺39件、肺35件、大腸が28件でした。食道・胃・大腸・肝胆膵を合わせた消化器領域は88件、前立腺・腎・尿管・膀胱を合わせた泌尿器領域は71件です。乳腺外科は、告知の際に同席を依頼されるケースが多いです。

5) のがんの状況については、初発が881件、再発・転移390件でした。

6) の現在の治療状況については、治療前が276件、治療中656件、治療後9件、緩和ケアのみ201件でした。

がん相談支援センターでは匿名の方などもお受けしています。その為、相談の際に詳細内容を話したくないという方もおられます。分かる範囲でのご相談とお伝えし、情報提供などを行っています。

7) の相談内容の内訳については、症状、副作用、後遺症などの相談が927件、不安、精神的苦痛が823件、がんの治療について594件、患者、家族間の関係199件、在宅医療178件でした。

患者家族間の関係についての具体的な相談内容は、患者ご本人よりも毎回付き添って来られる家族の方が治療や副作用に関して心配をされており、外来のたびに相談に来られる方もおりました。ご家族に対してもお話を聞くなど家族サポートをしています。グリーフケアに関しては、お亡くなりになったとご家族が挨拶に来られるケースがあり、その際に思いをお聞きするようにしています。

8) のがん相談支援センターへの専門家派遣依頼件数についてです。専門家派遣依頼に関しては、相談対応のなかで患者さんにご案内をしていますが、今年度希望される方はいらっしゃいませんでした。専門家派遣は神奈川県がん疾病対策課に連絡して要請します。調整に1から2週間程度要しますので、あらかじめ患者さんには少し時間がかかるとことをお伝えしています。社会保険労務士に関しては、急いでいる場合などもあり、相談者の状況により神奈川産業保健総合支援センターの相談窓口をご案内しています。こちらについては電話やメールでのご相談になり、場合によって面談対応になるとのことです。体調によって神奈川産業保健センターまで出向くことが難しい場合は自宅近くの公民館などに来てくれるそうです。今後もがん相談支援センターの支援内容を知ってもら

えるよう、周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○高山委員長

はい、説明が終わりました。議題2について、委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高山委員長

特にないようですので、議題2については終了させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。異議なしということで、議題2については以上を持ちまして終了といたします。

続いて議題3、救急搬送の状況について事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題3救急搬送状況について、ご説明いたします。

説明は医事課長の高瀬が説明いたします。資料については、資料3-1と資料3-2でございます。それでは資料3-1上段の表をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。

表の右側、年度累計当月までの欄をご覧ください。今年度4月から9月までと前年度の4月から9月までの合計搬送件数と、各病院への搬送割合を表したものでございます。今年度上半期、茅ヶ崎市消防の全体搬送件数につきましては8,172件で前年度の8,158人から14件の増加、とは言え、横ばいといったような状態で、その中で当院への搬送件数は2,571件と前年度の2,273件から298件増加しており、搬送割合についても31.5%と前年度の27.9%から3.6ポイント増加しております。

上半期における他院への搬送状況につきましては、湘南東部総合病院が19.6%と前年度21.0%から1.4ポイント減少、茅ヶ崎徳洲会病院は12.0%と前年度12.8%から0.8ポイント減少、湘南藤沢徳洲会病院は21.6%で前年度の22.8%から1.2ポイント減少しております。その他の医療機関への搬送割合についても茅ヶ崎中央病院を除き、ほとんどの医療機関で搬送割合が減少しており、当院への搬送割合が増加している状況でございます。

次に、下段の表をご覧ください。こちらは、診療科別に救急車の受け入れ件数と、そこから入院した患者数を表したものでございます。表の1番下、入院率をご覧ください。今年度の4月から9月までですが、8月までは入院率が35%を超えており、9月は34.4%となっています。

なお、表の右側、年度累計当月までの入院率、1番下の方を見ていただきますと、前年度39.5%に比べて今年度の入院率が36.9%と2.6ポイント減少しているところでございますが、これは、救急車の受け入れ件数が前年度2,382件から今年度は2,628件と246件増加しているところでございますが、救急車受け入れからの入院件数が前年度の940件から今年度は970件と30件の増にとどまったということが原因かと考えているところでございます。そのため、前年度に比べ受け入れ件数も入院件数も増えていますが、入院率については減少した結果となりました。

続きまして、おめくりいただいて、資料3-2をご覧ください。こちらは、4月から9月までの茅ヶ崎市消防による市立病院の搬送件数の割合を行政地区別に分類したものでございます。資料の下側にある合計欄をご覧ください。表の1番右の31.5%が3-1の資料でお示しした茅ヶ崎市消防からの市立病院に搬送された割合でございます。

当院に搬送される患者さんの地区別の割合につきましては、松林地区からの搬送割合が最も多く32.0%、次に鶴嶺地区からが28.9%、茅ヶ崎地区から25.1%の順となっております。前年度と比較し、松林地区からの搬送割合が34.1%から32.0%と2.1ポイント減少していますが、他の地区からの搬送割合は増えている結果となりました。説明は以上でございます。よろしくお願ひします。

○高山委員長

はい、説明ありがとうございました。議題3について、委員の皆様からのご意見、ご質問等はございますでしょうか。

はい、消防の方よろしくおねがいします。

○北畠委員

茅ヶ崎消防の北畠と申します。よろしくおねがいいたします。

ご質問が一つございます。資料3-1を見ますと、上段の表にある茅ヶ崎市消防による救急車搬送件数で、全体の救急車搬送件数が前年度8,158件から今年度は8,172件と微増にもかかわらず、市立病院への搬送件数は2,273件から今年度2,571件と約300件増加しており、搬送される割合についても前年度の27.9%から31.5%と大きく伸びていることが確認できます。市立病院では、今年度に入って何か特別な対策があったのかどうか、お聞きしたいところでございます。

○高山委員長

事務局より、説明をお願いします。

●事務局（高瀬医事課長）

日頃より、茅ヶ崎市消防の皆様におかれましては、当院の救急医療にご理解をいただき感謝申し上げます。ご質問の取り組みについてお答え申し上げます。

当院が令和6年度から進める茅ヶ崎市立病院経営計画では、6つの重点的な取り組みの一つとして救急医療の充実を図りますと掲げています。その具体的な指標として市消防本部からの救急搬送件数5,100件、搬送割合35%、救急応需率90.0%を設定しています。

計画初年度の昨年度、令和6年度は、これらの実績が計画目標を達成しておらず、課題となつたところです。副院长の栗山先生の指示があり、これまでに3つの取り組みを実施しているところです。具体的な取り組みの一つ目としましては、昨年度からの話になりますが、消防本部と協議を重ねる中で、救急の連絡運用について改善提案をいただいたところです。これまで、救急搬送する際に、消防本部からの第一報、救急隊員からの第二報という運用をしていましたが、これまでの長い歴史の中でできたこの運用は、他の病院では実施していないこともあります、心肺停止の症例を除き、この一報二報の運用を今年度4月から廃止し、迅速な救急車の搬送受け入れ決定が可能となりました。

取り組みの二つ目としまして、院内の体制整備として、救急車の受け入れ台帳の見直しを実施しました。この台帳は、救急受入れに係る報告書を兼ねており、記載省力化のため応需できなかった場合の理由があらかじめ印刷されていたのですが、運用するうちに、その理由で断つていいといった誤った認識が広がっていたことが分かりまして、項目の整理を行い、6月30日から運用を開始し

ています。

三つ目の取り組みですが、こちらの台帳を活用し、診療科別の応需率の統計を出すことで、経営計画上の目標に対するモニタリングをこれまでよりも詳細に実施しております。応需できなかった事情等をヒアリングすることにより、応需率の向上に努めるものです。

これらの活動に関しては、救急医療部会を中心に、院内で連携を取りながら進めているところです。また、直接的ではありませんが、病院長を中心とした病床運営に関するプロジェクトチーム活動において、満床であることを理由に救急搬送を断らないための看護部による病床コントロールを進めしており、こちらも応需率の向上に資する取り組みと考えています。

これらの結果として、上半期については、資料3-1でお示しましたとおり搬送件数、搬送割合共に増加しており、応需率につきましても 89.9%と昨年の 86.6%から 3.3 ポイント増加しているところです。10月の応需率については 91.5%、11月は 91.4%と計画目標を上回るレベルで維持できていることもあり、取り組みの成果を実感しているところではありますが、断らない良質な救急医療の提供の実現のため、さらに取り組みを進められればと考えているところです。

○高山委員長

事務局からの説明でよろしいでしょうか。

○北畠委員

ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

以上です。

○高山委員長

はい。その他に何かご質問などございませんでしょうか。

保健所の大久保先生、よろしくお願ひします。

○大久保（一）委員

7月、8月に搬送が多いのは、やはりこれは熱中症でしょうか。それが一つと、年齢で言うと、ほとんどが高齢者の救急搬送が過半数もしくは8割くらい占めているのでしょうか。

以上をお聞きいたします。

○高山委員長

事務局より説明をお願いします。

●事務局（高瀬医事課長）

お答え申し上げます。申し訳ございません、7月や8月の部分につきまして、詳細な分析をしていないところでございます。ただ、ご指摘のとおり、今年の夏も大変暑かったのでそういった熱中症での搬送も多かったのではないかと推察するところでございます。

●事務局（平山担当長）

それと年齢ですが、小児の救急車応需も診療科別で申し上げますと 343 件受け入れておりますの

と、整形外科の外傷系も含まれているところでございます。

○高山委員長

大久保先生、よろしいでしょうか。

○大久保（一）委員

どうもありがとうございます。年齢は消防の方に聞いたらいいかもしれませんが、やはり高齢者の方の割合が高くなっているという理解でよろしいでしょうか。

○高山委員長

消防の方、よろしくお願ひします。

○北畠委員

はい、北畠です。熱中症に関しましては、7月8月で年齢など具体的な数字が今すぐないのですが、200件近くはプラスになっている状況で、高齢者の方がやはり多くなっていますので、その関係ではないかと推測します。以上です。

○高山委員長

その他、何かご質問等ございませんでしょうか。

○高山委員長

では、ご質問がないようなので、議題3についてはこれで終了とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。では、異議なしということで議題3は終了といたします。

続きまして議題4、その他について、事務局および委員の皆さんから何かございませんでしょうか。

○高山委員長

特になければ本日の議題は全て終了いたしました。

事務局から、次回の会議について日程を報告していただけますでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

はい、ありがとうございます。

次回、令和7年度第4回の地域医療支援委員会は、令和8年3月13日金曜日19時から、同じくZoomによるオンラインにて開催予定となっております。よろしくお願ひいたします。

○高山委員長

それでは各委員の皆様、ご出席、ご参加等よろしくお願ひいたします。

皆様、ご協力ありがとうございます。

以上をもちまして令和7年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了といたします。

どうもお疲れ様でした。